



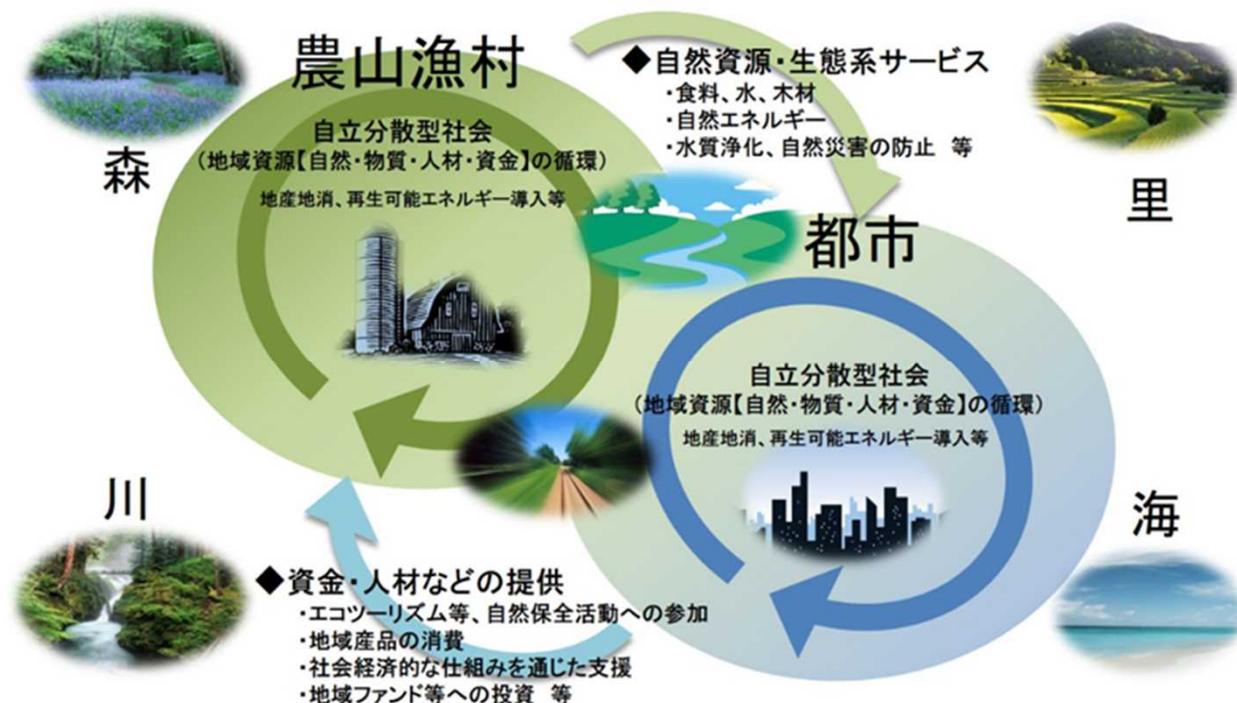
いけんひろば 事前ご説明資料

2023年11月8日
環境省



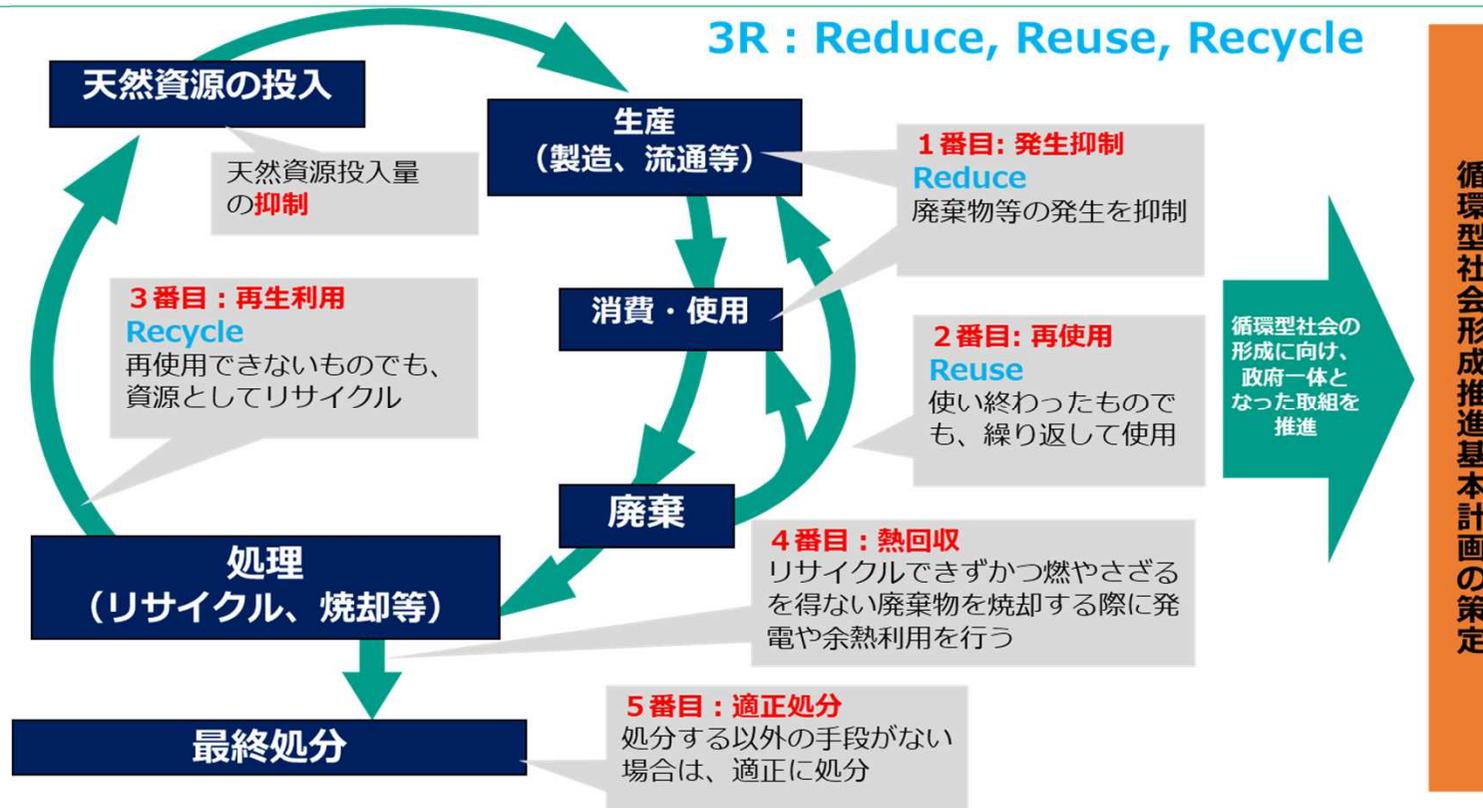
環境基本計画について

- 環境基本計画は、環境基本法第15条に基づき、**環境の保全に関する総合的かつ長期的な施策の大綱等**を定める。
- 計画は約**6年**ごとに見直し。現在の**第五次環境基本計画**は、中央環境審議会における審議を経て、平成30年4月に閣議決定。地域資源を持続可能な形で活用し、自立・分散型の社会を形成しつつ、地域間で支え合う「**地域循環共生圏**」の創造を目指す方針を打ち出した。
- **第六次環境基本計画の策定に向け**、令和5年5月より中央環境審議会で審議を開始。**令和6年4月に閣議決定予定**。



循環型社会と循環基本計画について

- 循環型社会とは、廃棄物等の発生抑制と適正な循環的利用・処分により、天然資源の消費を抑制し、環境への負荷ができる限り低減される社会
- 循環基本計画とは、循環型社会形成推進基本法（平成12年6月公布、13年1月完全施行）に基づき、**循環型社会**の形成に関する施策の基本的な方針、政府が総合的かつ計画的に講ずべき施策等を定めるもの



環境教育の基本方針について

- 環境教育等促進法第7条において、政府は、環境保全活動、環境保全の意欲の増進及び環境教育並びに協働取組の推進に関する基本的な方針（以下「基本方針」という。）を定める。
- 約5年ごとに見直し。**現在の基本方針は、環境教育等推進専門家会議（専門家会議）の検討を経て平成30年6月に閣議決定。
- 基本方針の改定に向け、令和5年6月より専門家会議にて検討を開始。令和6年3月に閣議決定予定。**

環境教育等を取り巻く現状

- 環境・経済・社会を統合的に向上させ、**地域循環共生圏の創造**を目指す必要性（持続可能な開発目標（SDGs）等）
- 小・中学校の新学習指導要領における「**持続可能な社会の創り手**」の育成、「カリキュラム・マネジメント」、「主体的・対話的で深い学び」（持続可能な開発のための教育（ESD）の実践にも関連）
- SDGsにおいて、「持続可能な開発のための平和で包摂的な社会の促進（ゴール16）」、「グローバルパートナーシップ（ゴール17）」が掲げられるなどパートナーシップ（協働取組）の必要性

現行基本方針の主なポイント

● 体験活動

- 体験の内容
⇒ **自然体験**、持続可能な社会づくりを支える現場に触れる**社会体験**、日常生活と異なる文化や慣習等に触れる**生活体験**、ロールモデルとなるような人との**交流体験**など幅広いものとして促進
- 学びのプロセス
⇒ 感性を働かせるという「インプット」、その中から**見いだした意味や価値を他者に表現するという「アウトプット」**
- 体験の効果
⇒ これまでになかった**気づきや感動**、**自尊感情や創造性の向上** 等

● 「体験の機会の場」の活用

地域や民間企業が取り組む「**体験の機会の場**」を「**地域や国を越えた交流の拠点**」として位置付けて、人の交流促進、成長につながる学びの提供、地域や企業の魅力の再認識を通じて、**持続可能な社会づくりにつなげていく。**



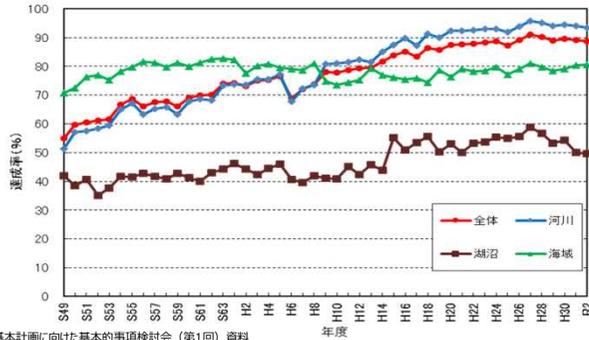
環境意識と将来への希望



- 公害は改善しつつあるが、残された課題・新たな課題が残る。しかし、環境問題は科学的知見によって改善し得る。
- 一方、我が国の国民の環境意識は世界的な傾向とは乖離がある。危機感が弱いことに加え、若者を中心に将来に希望が持てていないのが現状。

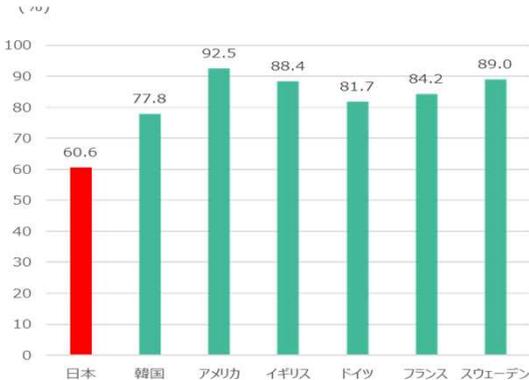
公害対策

水・大気環境は全体に改善方向だが課題は残り、PFAS等新たな課題も発生



出所：第六次環境基本計画に向けた基本的事項検討会（第1回）資料

将来への希望



将来について「希望がある」と答えた割合が低い
我が国では自分の将来に明るい希望を持っていない若者が多い

(注) 「あなたは、自分の将来について明るい希望を持っていますか。」との問いに対し、「希望がある」「どちらかといえば希望がある」と回答した者の合計。

出所：内閣府「国民生活に関する世論調査」(2018年)

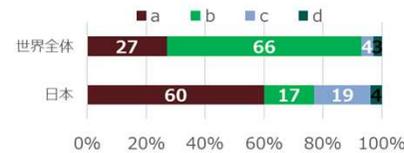
環境意識

我が国の市民の約60%は、気候変動対策は「生活の質を脅かす」と回答（対照的に、世界全体では市民の約60%が「生活の質を高める」と回答）。また、気候変動が与える影響に関する経年調査でも、日本・米国は「懸念する」割合が低下

●世界市民会議「気候変動とエネルギー」における投票結果（抜粋）

【設問1-2】あなたにとって、気候変動対策は、どのようなものですか？

- a 多くの場合、生活の質を脅かすものである
- b 多くの場合、生活の質を高めるものである
- c 生活の質に影響を与えないものである
- d わからない／答えたくない



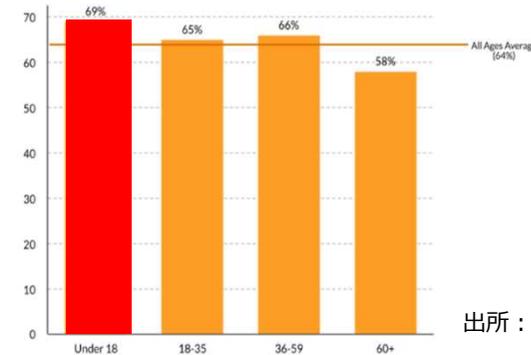
出典：科学技術振興機構「World Wide Views on Climate and Energy 世界市民会議「気候変動とエネルギー」開催報告書」(平成27年7月)

●国別比較：「気候変動が自身に与える影響について非常に懸念している」と回答した割合の推移

	2015年	2021年	変化
ドイツ	18	37	(+18)
英国	19	37	(+18)
オーストラリア	18	34	(+16)
韓国	32	45	(+13)
スペイン	36	46	(+10)
カナダ	27	34	(+7)
フランス	35	41	(+6)
イタリア	37	42	(+5)
米国	30	27	(-3)
日本	34	26	(-8)
(中央値)	31	37	

出所：PEW Research Center「IN RESPONSE TO CLIMATE CHANGE, CITIZENS IN ADVANCED ECONOMIES ARE WILLING TO ALTER HOW THEY LIVE AND WORK」(2021年9月14日)

若い世代の環境意識



出所：UNDP「Peoples' Climate Vote」2021年

様々な調査で、世界的に若い世代の環境意識が高いとの結果がある。左のグラフは、UNDPによる世界の50か国を対象に実施した環境意識調査で「気候変動は世界的な危機である」と回答した割合。

ヒアリング内容

いま、そして、これからの環境問題や社会について思うこと

気候変動をはじめとする環境問題は、現在だけでなく将来世代の生活をも左右する社会課題であり、こども・若者を含めた幅広い世代の皆さんの思いを受け止め、希望が持てる将来社会（持続可能な社会）をつくっていくことが重要です。

1. 環境問題に対して思うこと

- 環境問題に生活を脅かされると感じたことはありますか？
- 日本の環境問題に対する取組は進んでいると思いますか？
- 30年後の世界の環境はどのようになっていると思いますか？

2. 環境問題を学ぶことについて

- 環境に関することを学んだことはありますか？
どこで、どんな内容を学びましたか？
- 学んだ内容は普段の生活や活動にどのように生かしていますか？
生かしていない場合は、どうしたら生かせそうですか？

3. ごみ問題とリデュース、リユース、リサイクルについて

- 普段の生活の中で、ごみについてどう考えていますか？
- ものを長く使ったり、一度使ったものを再利用（リユース）、リサイクルしやすいように何か行動したり、意識していることがありますか？
- もののレンタルサービスや中古品の利用についてどう感じますか？

4. 環境問題に対する行動について

- 環境に良いことをするひとについてどう思いますか？
- 環境に良いことをするひとが増えるためにどのような仕組みやツール（例えば動画や資料等）が必要だと思いますか？